概　略

1　縄文文化～アイヌ文化期
2　江戸から明治へ
3　村の発展と合併、町への昇格
4　交通網の発展
5　農業の盛衰
6　札幌市との合併、豊平区の誕生
7　その後の発展、平成からの出来事

1　縄文文化～アイヌ文化期

札幌では、旧石器のものとみられる石器が見つかっていますが人々が集落をつくって暮らしていた明らかな痕跡は、縄文早期に現れはじめます。豊平区内にも、縄文文化、続縄文文化などの遺跡が発見されており、この時代から人々が暮らしていたことがわかります。

発掘された遺跡は、平岸、美園、月寒中央、月寒西、月寒東、西岡、福住、羊ケ丘など、区内の広い範囲にわたっており、生活に使用していた土器だけでなく、集落跡や墳墓も発見されています。主な縄文遺跡としては、あやめ野中学校周辺（月寒東３条 11 丁目、月寒東５条 13 丁目）で発見された竪穴住居跡や土坑など（T151 遺跡）があります。一部は「あやめ野中学校校地内遺跡の森」として現状保存されています。この他、羊ケ丘（T464、465、466、467、468、469、470 遺跡）や天神山緑地周辺（T71 遺跡）、平岸ぼうず山公園周辺（T310 遺跡）でも縄文中期の竪穴住居跡などが発掘されています。また、西岡（T210 遺跡）では縄文晩期末から続縄文初頭のお墓と推定されるものが発掘されています。

T71 遺跡や T151 遺跡、T469 遺跡などでは擦文文化、天神山緑地の天神山チャシ跡ではアイヌ文化期のチャシ跡が発見されています。擦文文化以降も、人々の営みが続いていたことがわかります。

本州の時代区分		年代	北海道の時代区分	
旧石器文化		20000 年前 16000～ 15000 年前	旧石器文化	
縄文文化	草創期	10000 年前	縄文文化	草創期
縄文文化	早期	7000 年前	縄文文化	早期
縄文文化	前期	5500 年前	縄文文化	前期
縄文文化	中期	4500 年前	縄文文化	中期
縄文文化	後期	3000 年前	縄文文化	後期
縄文文化	晩期	2300 年前	縄文文化	晩期
弥生文化			続縄文文化	
古墳文化			続縄文文化	オホーツク文化期
古墳文化	飛鳥時代		続縄文文化	オホーツク文化期
奈良時代		1300 年前	擦文文化	オホーツク文化期
平安時代			擦文文化	オホーツク文化期
鎌倉時代			擦文文化	
室町時代		800 年前	アイヌ文化期	
安土・桃山時代			アイヌ文化期	
江戸時代			アイヌ文化期	

北海道の時代区分は、考古学における一般的な時代区分を示しています。

図 -1　時代区分

2　江戸から明治へ

安政４（1857）年に行われた銭箱（現在の小樽市銭函）から千歳・勇払に至る札幌越新道の開削に伴い、現在の豊平３条１丁目付近で、通行屋（旅行者の休憩・宿泊施設）の建設が始まりました。安政６（1859）年には、志村鉄一がこの地に定住し、通行屋の番人も務めました。

明治時代に入り、北海道開拓使が設置されると、本州から多くの移住者がやってきました。明治４（1871）年には、現在の岩手県出身の人々が平岸、月寒などに移住して開拓が始まりました。その後、明治５（1872）年には平岸村と月寒村が、そして、明治７（1874）年には豊平村が誕生。また、明治８（1875）年には、開拓使のお雇い外国人技師ホルトの設計による最初の本格的な豊平橋が完成しています。

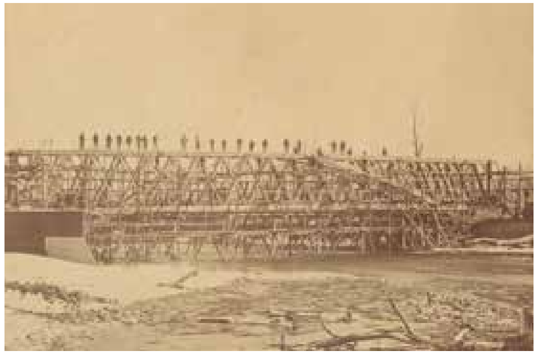

写真 -1　最初の本格的な豊平橋
（アメリカ人技師ホルト設計、明治８年完成）

3　村の発展と合併、町への昇格

これら３つの村は、それぞれが違った形で発展していきました。平岸村は、豊平川上流域までを含み、後に「平岸リンゴ」として有名になるリンゴの栽培などで栄えていきました。また、月寒村は、当初、現在の北広島市方面までを範囲としており、農業を中心とした街でしたが、明治 29（1896）年に陸軍第７師団の兵営が設置され、後に歩兵第 25 連隊として長くこの地に置かれたことにより、軍都としての性格を併せ持つことになりました。そして、豊平村は、室蘭街道（現在の国道 36 号）から当時の札幌区に入る玄関口として、商店や宿などが立ち並び、にぎわいを見せました。明治 35（1902）年、豊平・月寒・平岸の３村が合併して、新た

に豊平村となりました。そして、明治 41（1908）年には、豊平町に昇格。さらに、同 43（1910）年、現在の豊平地区が札幌区に編入し、町役場が豊平から月寒に移転したことにより、月寒は行政の中心地として栄えました。

4　交通網の発展

大正時代に入ると、豊平町にもいくつかの交通機関が登場してきました。

大正初期には、月寒から札幌の中心部まで客馬車が走りました。大正 7（1918）年には、豊平、平岸を通って定山渓に至る定山渓鉄道が開通。さらに、大正 13（1924）年には、路面電車が豊平川を越えて、豊平地区まで延びました。また、同じころ、月寒まで乗合バスも営業を始めました。

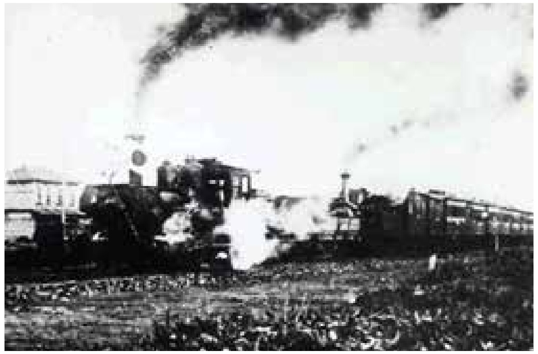
写真 -2　豊平駅構内の定山渓鉄道（大正 7 年）

年号が変わって間もなく、昭和 2（1927）年には、札幌市が路面電車を買収し、市電となります。バスや電車が行き交い、定山渓鉄道も交差していた室蘭街道（現在の国道 36 号）は、商店が立ち並び、まさに交通の要衝と呼ぶにふさわしいにぎわいを見せていました。

5　農業の盛衰

明治時代から始まった平岸地区のリンゴ栽培。この「平岸リンゴ」の名は、全国的に有名になったばかりでなく、明治中期から後期にかけては旧ソ連のウラジオストクに、また、昭和 11（1936）年には試験的ながらシンガポールに輸出されるほどに栄えました。しかし、このリンゴ栽培は、宅地

化の波にのまれ、次第に衰退していくことになります。

この他にも、ジャガイモやホップなど、各地でさまざまな作物が栽培されましたが、やはり、リンゴと同じような運命をたどっていきました。

6　札幌市との合併、豊平区の誕生

徐々に都市化が進行していった昭和 36（1961）年、豊平町は、郷土のさらなる発展のため、札幌市と合併しました。人口は増加の一途をたどり、交通体系に変化の兆しが現れます。

自家用車の普及などの影響で、昭和 44（1969）年には定山渓鉄道が、また同 46（1971）年には市電豊平線が、それぞれ廃止され、代わって、同年、地下鉄南北線が開通しました。

さらにその翌年の２月、冬季オリンピック大会が開催され、同年４月には札幌市が政令指定都市となり、区制の施行に伴って、豊平区が誕生しました。

昭和 49（1974）年には、現在の豊平区役所庁舎が完成。環状通の区役所付近から国道 36 号にかけての中央分離帯にはリンゴの木が植樹され、並木として整備されました。

写真 -3　リンゴ並木（昭和 50 年）

7　その後の発展、平成からの出来事

写真 -4　札幌ドームオープンセレモニー

平成に入り、札幌ドームやカーリング場、平岸庭球場など各競技で世界大会が開催できるスポーツ施設が次々に建てられました。多くのスポーツ施設が集まる豊平区は、大きな大会の会場になることも多く、開催に当たっては、いつも地域の協力がありました。会場になった地域の歩道の清掃や沿道の花壇の手入れ、大会当日の準備作業に協力するなどして大会を支えました。

また、各種スポーツ施設を活用して子ども向け体験会を開催するなど、さまざまな競技に触れる機会もつくってきました。

区が誕生して 50 年を迎えた令和 4（2022）年から、「スポーツ」と「健康」を新たなキーワードに、ウオーキングをはじめとする身近な健康づくりに取り組んでいます。各種スポーツイベントの開催はもちろん、区内各所を巡るウオーキングマップを活用して、ウオーキングコースに関連したクイズを出題し、区内を歩いてもらう「てくてくとよひら」を実施しました。

また、翌年には「スポーツ」「健康」に「安全安心」をキーワードに加え、地域と協力して、交通安全や防災に関するさまざまな活動に取り組んでいます。

豊平区ウオーキングマップ（左）
区内 10 カ所のおすすめウオーキングコースを見どころとともに紹介。
指定のコースを巡り、クイズに答える「てくてくとよひら（右）」も開催されました。